プラットフォーム会議に参加して

鬼海　仁（山形県立山形東高等学校２年）

１. 会議に参加して

これまで、教員になりたいという漠然とした将来像を抱いていました。というのも、身近な環境に「教員」という職業が溢れており、日常生活とは切っても切り離せない、親密な間柄にあったからです。高校の先生の一人が、授業は教員の仕事のたった一部分であり、他にも様々なことをしていると仰っていました。生徒という立場の私達は授業以外で教員が何をしているのかは想像することしかできず、うまく教員像というものがつかめません。そして、教員になりたいという動機も端的に言えば、生徒と授業を共にしたいからとなり、こんな私がこの会議に出席していいのだろうかと疑問と不安がありました。そんな中、暖かく迎えてくださり、自然体で会議に望むことができました。ありがとうございます。

１回目の会議では山形の教育における課題を知りました。報道等で知れるようなありふれた内容ではなく、より生々しく新鮮味のあるものでした。なんとなくでしか教育課題について認識していなかった私でしたが、忽然と私が会議に出席する一員であり、会議に参加していることの重要性を強く感じました。それから２回目の会議が行われるまで、自分が教員になりたい理由、きっかけについて何度も考えるようになりました。曖昧な私の考えでは、教員を志望する上で、このままではいけないと感じたためです。うまく言語化するまでには至りませんでしたが、教員になりたいという意志を固めていけました。

２. プラットフォーム会議について

２回目の会議の報告の際、とても印象的な話が２つありました。まず、小学校教員セミナーに参加した生徒の感想に、小学生と関わることの難しさや自分に教員という職業はあってはいないのではないかという内容があったことです。体験セミナーに参加することで、より一層意志が強まる人がいる一方、その逆の思いを抱く人がいるのも想像できます。このセミナーからわかるように、教職の魅力を全体的に広げていくことは言葉に示す以上に難しさが伴います。

教員をめざす人が増えるように新しいことを行っていくことの重要性は当然あるものの、元々教員を目指す人達に向けた活動やこれまでの活動を継続して行っていくことの有意義さも忘れてはいけないということが２つ目です。何かこれまでの状況に変化を与えようとしたとき、これまでの活動では十分でないと感じ、なにか新しいアクションを私達は起こそうとするでしょう。それでもこれまでの活動を否定する必要はなく、継続することで広がる輪を更に広げていくことも忘れてはいけないのです。

人によって同じことをしても感じ方は異なります。それでも、教職の魅力を創造、伝達していき、山形の教育現場における課題を解決していけることがこのプロジェクトが持つ大きな特徴です。セミナーや講習で様々な体験ができる参加者と、この会議に出席し、さらなる効果をもたらそうとする企画者。この二者による共存関係をうまく構築していけるよう考えていくことはとても難しく、一朝一夕で達成できるものでもありません。それでも様々な年代と立場の人が集まるこの場だからこそ、導き出せるものは必ずあります。その特質性を大事にしながらこれからのプロジェクトが行われたらと思います。